



## 商品先物市場の仕組み 後編



商品先物市場は、資産運用機能だけではなく、様々な社会的、経済的機能を有しています。今回は、商品先物市場の機能について紹介します。

**商品先物市場の機能** 商品先物市場は、以下6つの機能を有しています。

### 1) 透明で公正な価格形成・発信機能

モノの価格は、基本的には売り手と買い手のバランスによって決定されます。ところが、たとえば売り手が一部の大手業者に限定された場合、売り手の都合によってのみ価格が決定されてしまうことがあります。一方、商品取引所における価格は、ヘッジ(=価格変動リスクの回避)を目的とした生産者や実需家、現物の受け渡しを目的とする投資家や企業、リスクを取って利益を追求する投機家など、様々な思惑をもった多くの売り手と買い手によって決定されます。また、取引は明確なルールに基づいて行われ、誰かが市場を独占、支配することのないよう取引所が監視を行っています。そのため、取引所で決定される価格は、透明度の高い、公正な価格ということができます。

なお、商品先物市場に出された注文は明確に定められた規則に基づいて約定され、成立した約定価格は直ちに公表されます。

### 2) 価格変動リスクのヘッジ機能

先物市場には、商品の価格変動リスクを第三者へ移転、回避する場を提供するヘッジ機能があります。現物価格と先物価格は、原則、連動します。また、先物価格は取引最終日には現物価格と同値に収れんします。ヘッジ取引とは、これらの値動きの特徴を利用して、現物取引で発生する損益を先物取引の損益で相殺する行為のことです。

ヘッジ取引には「買いヘッジ」と「売りヘッジ」があります。「買いヘッジ」は、将来の価格上昇リスクに備えるものです。たとえば、将来、原材料の購入を予定している時、今後の価格変動に関係なく、現在の価格に近い価格で原材料を購入したい場合や、現時点で購入すれば発生する保管コスト(金利・保管費用等)の負担を避けたい場合などに用います。(例1参照)「売りヘッジ」は、価格下落リスクに備えるものです。たとえば、将来、商品の売却を予定している時、今後の価格変動に関係なく、現在の価格で商品を売却したい場合や、保有している商品の価格下落を回避したい場合などに用います。(例2参照)

ただし、ヘッジ取引には様々な注意点があります。そのうちのひとつがヘッジ会計です。会計上、ヘッジ取引として認められなかった場合、現物取引と先物取引の損益は別々のものとなります。ヘッジ会計が適用されるためには、ヘッジ取引を開始する前並びにヘッジ取引開始以降の双方において、満たしておかなければならない要件があります。これについては、下記サイトを参照してください。

■日本商品先物振興協会サイト [http://www.jcfia.gr.jp/sangyo/hedge\\_trading/c06.pdf](http://www.jcfia.gr.jp/sangyo/hedge_trading/c06.pdf)

[http://www.jcfia.gr.jp/sangyo/hedge\\_manual20100415.pdf](http://www.jcfia.gr.jp/sangyo/hedge_manual20100415.pdf)

### 3) 資産運用機能

少額の証拠金を差し入れることにより多額の取引を行うという、レバレッジをきかせた資産運用を行うことができます。

### 4) 換金・金融機関機能

商品先物市場を利用して、手元にある商品を売却（＝現渡し）し、換金することができます。また、米国では、農場経営者や穀物取扱業者などが穀物価格の変動リスクを商品先物市場でヘッジしている場合、銀行が、その在庫の一定割合までの融資条件を緩和することがあるそうです。これは「ヘッジしていない商品在庫は投機」（引用：『商品先物取引の基礎知識』木原大輔／著、時事通信社）という考えからくるようです。ただし、これは企業と銀行との相対契約の話であり、そのための法律や制度があるわけではありません。

### 5) 実物取得機能

商品先物市場を利用して、商品現物を取得する（＝現受け）ことができます。たとえば、金や白金（＝プラチナ）などを一般小売価格より割安な価格で購入することができます。

### 6) 在庫調整機能

ヘッジ取引の考え方を応用すれば、今ある商品在庫を調節することが可能です（※注）。たとえば、現在保管している商品を売却すると同時に、先物市場で同量の買いポジションを保有します。こうすれば、倉庫料を削減することができます。さらに、売却代金の一部については金利収入を得ることも可能となります。※ある一定の条件の下で可能となる。

今回は、最近の商品先物業界の動向について紹介します。

<著者プロフィール>



## 三次 理加 氏

CFPR認定者。95年、商品先物老舗のカネツ商事（株）に入社、08年9月退職。06年月から09年3月までの3年間、『夕刊フジ』にコラムを連載。06年9月から09年3月までBS ジャパン（日経CNBC）「マーケットウィナーズ」に商品市況コメンテーターとして準ゲスト出演、現在はラジオNIKKEI 第1「ファイナンシャルBOX」に商品市況コメンテーターとして出演するほか、『証券新報』にコラムを連載中。著書に『ネットで簡単！リカがやさしく教える商品先物 超入門』（柏書房）、『入門 商品投資のすゝめ』（同盟出版サービス）がある。

◇今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP 実務研究会事務局では、FP 実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP 実務研究会事務局【㈱日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。

TEL 03-3340-4488